

2022 年度
教職課程自己点検評価報告書

広島女学院大学

2023 年 3 月

広島女学院大学 教職課程認定学部・学科等一覧

人文学部	国際英語学科
	日本文化学科
人間生活学部	生活デザイン学科
	管理栄養学科
	児童教育学科
	生活デザイン・建築学科 (2018年度より学生募集停止)
	幼児教育心理学科 (2018年度より学生募集停止)
国際教養学部	国際教養学科 (2018年度より学生募集停止)
大学院言語文化研究科	日本語文化専攻
	英米言語文化専攻
大学院人間生活学研究科	生活文化学専攻
	生活科学専攻

大学としての全体評価

本学では、初等教職課程、中等教職課程の運営にあたる委員会、両教職課程を統括する委員会を設置し、各委員会が連携しながら「教員養成の理念」に基づき教員の育成に取り組んでいる。

近年「教育の質の保証」の重要性が益々高まっていく中、教育職員免許法施行規則改正により教職課程の自己点検・評価の実施が義務化され、教職課程の質についても検証することになった。今回の教職課程自己点検・評価では、教職課程運営委員会を主軸に教職員間での意見交換、評価項目毎の取り組み状況の確認を行うことにより、本学の特色を踏まえた評価を行うことができたと考えている。

自己点検・評価の結果、学生の自己評価システムや、学生に対する個別支援などが長所・特色として認められ、適切な支援体制のもと教育が行われていることが確認できた。いずれの評価項目においても概ね必要な取り組みができているものの、「育成を目指す教師像」の目的・目標の共有、教員・職員および関係機関との協働体制の構築、キャリア支援など、改善すべき点も明らかになった。これらの改善点について、教職課程に反映させ、十分な見直しを行っていくことが重要であり、全学的に改善に取り組み、教職課程の質向上に努めていきたい。

広島女学院大学

学長 三谷 高康

目次

I	教育課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	3
	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	3
	基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有	3
	基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫	4
	基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	6
	基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成	6
	基準項目 2-2 教職へのキャリア支援	7
	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	9
	基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施	9
	基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携	10
III	総合評価	12
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	12
V	現況基礎データ一覧	13

I 教職課程の現況及び特色

1. 現況

(1) 大学名：広島女学院大学

(2) 学部名：人文学部

人間生活学部

国際教養学部 (2018年度学生募集停止)

大学院 言語文化研究科

大学院 人間生活学研究科

(3) 所在地：広島県広島市東区牛田東四丁目13-1

(4) 学生数及び教員数 (2022年5月1日現在)

学生数：

人文学部	教職課程履修	62名／学生全体	336名
人間生活学部	教職課程履修	327名／学生全体	781名
国際教養学部	教職課程履修	0名／学生全体	4名
言語文化研究科	教職課程履修	2名／学生全体	5名
人間生活学研究科	教職課程履修	1名／学生全体	3名

教員数：

人文学部	教職課程科目担当 (教職・教科)	12名／学部全体	12名
人間生活学部	教職課程科目担当 (教職・教科)	24名／学部全体	32名
言語文化研究科	教職課程科目担当 (教職・教科)	9名／研究科全体	9名
人間生活学研究科	教職課程科目担当 (教職・教科)	12名／研究科全体	22名

2. 特色

本学では、幼稚園教諭一種免許状および小学校教諭一種免許状の取得を目指す課程を初等教職課程、中学校・高等学校一種免許状および栄養教諭免許状の取得を目指す課程を中等教職課程としている。2018年度改組にあたり、建学の精神を基盤とした女性のライフキャリア教育の実現を掲げ、ディプロマ・ポリシーに1)「ぶれない個」、2)「多様性」、3)「寛容と協働」を定めた。その際、教職課程では中央教育審議会答申が平成27年に示した「これからの時代の教員に求められる資質能力」、1)「キャリアステージに応じた資質・能力を高める自律性(「学び続ける教員」)」、2)「『チーム学校』の考え方の下、組織的・協働的に諸課題の解決に取り組む力」、3)「新たな課題に対応できる力量(アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善、道徳教育の充実など)」もふまえ、以下の目標を掲げ、教育に取り組んでいる。

1) 教員としてのライフキャリアを確立するための基礎力の育成

時代や社会の変化を見据えつつ、ディプロマ・ポリシー「ぶれない個」の実現のため、教員としての生涯を見通した「ライフキャリア」という視点を育てることを目指す。具体的には、全学共通科目「ライフキャリア科目」を通して、自己の将来への展望を明確にし、ライフキャリアを確立していくための基礎力を培う。また、本学で電子システム化している教職履修カルテを活用し、学修成果を意識しながら、学科の専門科目とともに教職科目を履修することで、教員としての専門的知識、技能、力量、資質を段階的に育成する。

2) グローバルな視点に立ったアクティブ・ラーニング

ディプロマ・ポリシー「多様性」の実現のため、国際的な視野に立った国内外の言語や文化についての教育を通して、新たな課題に対応できる力を育成することを目指す。具体的には様々な専門領域との交流・ディスカッションおよびフィールドワークやインターンシップなどの主体的、協働的、体験的な学習＝アクティブ・ラーニングを通じた横断的知識と問題解決力等を育成する。

3) 体験活動を通じた他者との協働連携

ディプロマ・ポリシー「寛容と協働」の実現のため、先述のディプロマ・ポリシー「ぶれない個」「多様性」によって培った自己と他者の多様な価値観・生き方を発見、受容し、他者との共生を実現できる力を発展させ、中教審によって提唱されている「チーム学校」という方向性に合わせて、さまざまな専門性を持ったスタッフと協働できる寛容性および資質能力を育成することを目指す。具体的には、インターシップ科目および学内外のボランティア活動を通して、年齢、性別、地域等々を異にする他者と交流することで、他者の多様な価値観・生き方に触れるとともに、それらを寛容の精神の下に受容し、他者と協働する力を育成する。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明〕

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、「育成を目指す教師像」等については、本学の『カリキュラムブック』、『大学院要覧』、本学ウェブサイト「教職課程の情報公開」、各種ガイダンス等において、学生に周知している。

ディプロマ・ポリシーおよび「育成を目指す教師像」の実現にあたっては、各学科の教職課程委員が中心に、「各段階における到達目標」を立て、定期的なガイダンスや授業内外で学生指導、支援を行っている。また、毎月 1 回程度開催される教職課程委員会で教育指導の実態および課題を共有している。

また、学生に対しては、『カリキュラムブック』にカリキュラム・マップを掲載し、シラバスには授業ごとに該当ディプロマ・ポリシーおよび到達目標を記すことで、カリキュラムを通してはぐくもうとする学修成果を示している。

〔長所・特色〕

学内ポータルサイトを使用し、学生が授業ごとに設定された到達目標について自己評価を行う仕組みを備えていることが特色である。教員による成績評価だけでなく、学生が到達目標を観点として自らの学びの軌跡を振り返ることは、主体的かつ深い学びを達成する上での長所である。

また、教職課程委員会では、教職課程に関する科目のコアカリキュラムに基づいたシラバスの作成、カリキュラム・マップに基づいた科目間の連携を行い、教職課程教育の目的・目標の実現に向けて計画的に実施している。

〔取り組み上の課題〕

「育成を目指す教師像」はウェブサイト公開やガイダンスに周知しているが、学生が十分に認識しているとは言い難く、授業や指導を通して周知することが課題としてあげられる。

中等教職課程においては、構成学科・研究科の所属教員すべてが「育成を目指す教師像」の実現に向けた教職課程の目的・目標の共有ができているとは言い難い。学科の専門性を尊重しながら、各学科の中等教職課程委員を窓口として目的・目標の共有を目指していく必要があると考えられる。

* 根拠となる資料・データ等

資料 1-1-1 情報公開「教職課程の情報の公表」

<https://www.hju.ac.jp/guide/teacher-training.php>

資料 1-1-2 カリキュラムブック 2022

資料 1-1-3 大学院要覧 2022 年度

資料 1-1-4 学内ポータルサイト

資料 1-1-5 シラバス <https://asm-ediea.com/hju/open/ja/syllabuses>

準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

教職課程の運営組織として、初等教職課程においては初等教職課程委員会、中等教職課程においては中等教職課程委員会を設置し、これらを統括する全学的な組織として総合学生支援センター長を委員長とする教職課程運営委員会を設置している。

各課程では文部科学省「教職課程認定基準」に則って教員配置を行っている。また、初等教職課程委員会は児童教育学科の全教員及び教職担当教務課員で構成している。中等教職課程委員会は中等教職課程専任教員、中等教職課程を置く学科から選出された教員及び教職担当教務課員で構成している。

教職課程の質的向上のために、教職課程としては初等教職課程、中等教職課程それぞれの委員会や機会を得た会議、打ち合わせを通じて、自己点検評価に努めている。なお、中等教職課程においては、教育実習をむかえるにあたって学生にアンケートをとり、その結果を指導、支援に活かしている。また、シラバス作成時においては、各課程主任が責任者として、課程に関わる科目のシラバスをチェックし、質の担保、向上に努めている。また本学では、各教室、コンピューター室、図書館および教職課程関連施設などを中心にハード面、またソフト面ともに教職課程教育を行う上でその充実に努めている。

教職課程に関する情報は本学ホームページ「教職課程の情報の公表」にて公開している。

〔長所・特色〕

各課程は月 1 回程度の教職課程委員会を開催している。教職課程委員には実務家教員、研究者教員がともに含まれ、それぞれの知見や立場を活かした意見交換や情報共有が行われている。定期的な委員会以外にも、小規模大学ならではのフットワークを活かし、課程運営に関わる事項や学生の学習状況について情報、意見の交換を適宜行っており、学生に対する丁寧な指導を可能にしている。

環境面では、教職自習室、教職資料室を設置している。また、全ての教室の Wi-Fi 環境、3 種類の電子黒板などのハード面での整備、および Google Classroom や学校現場で使用されている ICT ツール（ロイロノートなど）などのソフト面の充実に努めている。このような環境下で、実務家教員が中心となり、学生の個別相談・指導に応じている。

〔取り組み上の課題〕

両教職課程の関係教員と事務職員が一体となって教職課程を運営していくためには、教職課程運営委員会を定期的で開催し、両課程の協働体制を構築することが課題である。

また、教職課程が主体となる独自の FD・SD 研修は開催できていないため、教職課程として計画的、組織的に FD・SD 研修会を実施することが課題である。

*根拠となる資料・データ等

資料 1-1-1 情報公開「教職課程の情報の公表」

<https://www.hju.ac.jp/guide/teacher-training.php>

- 資料 1－1－4 学内ポータルサイト
- 資料 1－2－1 中等教職課程委員会議事録
- 資料 1－2－2 広島女学院大学教職課程運営委員会規程

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状説明〕

入学前には、アドミッション・ポリシーを記載した入試ガイドを活用し、本学の教職課程で学ぶにふさわしい学生像等を高校生に伝えている。

学生が教職課程を開始するための基準はないが、初等教職課程、中等教職課程いずれにおいても、教育実習の履修要件として成績基準を設定しているため、これが履修を継続する基準となる。学生に対しては『カリキュラムブック』、各種ガイダンスや個人面談を通して、教育実習履修要件の周知徹底を行い、教職員による支援を行っている。

学生は学内ポータルサイトにて自身の学修状況を把握し、半期ごとに「教職履修カルテ」の記入を行い、自らの資質・能力や適性を確認することができる。この「教職履修カルテ」の内容をもとに個人面談を行い、学生と教員がともに現時点での資質・能力、適性について把握する機会とするとともに、その向上のための教職指導を行っている。

〔長所・特色〕

教育実習履修要件の設定とともに、学生が記入した「教職履修カルテ」の内容に対して、コメントを付してフィードバックをしている。また、「教職履修カルテ」をもとに個人面談を行い、教職を担うべき資質・能力や適性について確認し、学生の適性や資質に応じた教職指導を行っている。このような取り組みを通して、教職に就くことに強い意志を持った学生が教職課程を履修するようにしている。

〔取り組み上の課題〕

児童教育学科以外の学科においては、すべての学生が教職課程を履修するわけではないため、教職を担うべき適切な学生の募集をどのように実施するのか検討が必要である。また、教職を目指す学生が減少しているため、教職課程科目を履修している先輩学生や教職に就いている卒業生を交えたガイダンスを実施するなど、教職の魅力を学生に伝えるといった機会を設けることが必要である。

教職課程の学生の指導にあたっては、教職課程に関係する一部の教員のみならず、全教員で「教職課程で学ぶにふさわしい学生像」を共有し、包括的な指導、支援を行っていく必要があり、その仕組みづくりが課題である。

*根拠となる資料・データ等

資料1-1-2 カリキュラムブック 2022

資料1-1-4 学内ポータルサイト

資料2-1-1 入試情報『2023 広島女学院入試ガイド』pp.4～6

https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/frame.aspx?id=7540700-2-5&FL=0

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

〔現状説明〕

教職を目指す意欲が持続するようにカリキュラムの工夫や学内外の活動を設けることによって、教員免許取得件数、教員就職率を高めている。特に教職を目指す学生の学習組織は、実践的指導力の育成や教員採用試験対策を意図するのみでなく、教職に就いている卒業生との連携の機会の提供を担っており、仕事や就職に関する相談も行っている。また、教育委員会などと連携を図り、現任教員と交流する場を設け、学生にとって教職を身近なものとなるようにしている。さらに、学生への教職に関する情報の提供は、ポータルサイト、キャリアセンターの Google Classroom を用いている。その他、教育実習指導訪問、私立高等学校への訪問、教員の個人的なつながりから得られた情報も、適宜、関係する教員や部署と情報共有して学生たちに提供している。

個々の学生に対しては、教職課程科目の担当者が履修態度や成績等から意欲や適性を把握するとともに、毎学期行っているチューター面談でも確認している。また、教育実習事後指導において実習を振り返る中で、学生自身が教職への適性をどのように捉えたのかを把握するとともに、実習校・園からの評価も学生の意欲や適性を把握するための資料としている。学生への支援で必要な情報はポータルサイトで管理され、教員、教務課、キャリアセンター等で共有されており、適宜必要に応じて学生の支援を組織的に行うようにしている。

〔長所・特色〕

教育現場を体験できるカリキュラムを設けて教育現場の体験と実践力の向上を図り、教職に向かう動機の維持に繋げている。同時に、教職を目指す学生の学習組織は採用試験合格率の向上に貢献している。

さらに、学生の履修状況や学生への指導内容等のデータはポータルサイトで一元管理しており、教職員が常に情報共有している。この情報をもとに、3年次にキャリアセンターに「進路登録票」で教職を希望することを届出ている学生に対しては、ニーズに沿った情報を個別に提供している。

〔取り組み上の課題〕

キャリアセンターが提供する情報は一般的な就職活動に関するものが主となっており、教職に特化した情報提供はされていない。教職課程の学生が必要とする教職に関する情報を得ることができるよう、情報の提供の仕方を改善する必要がある。また、学生指導時に利用しやすいシステム作り、活用方法の検討が必要である。さらに、教職に就くことや教員免許状の取得を諦める学生に対する個々の事情に沿ったキャリア支援を早期に行うことも必要である。

*根拠となる資料・データ等

資料1-1-4 学内ポータルサイト

資料2-2-1 学科紹介「小学校教育実践研究会」

<https://www.hju.ac.jp/faculty/life-design/cep/news/2022/10/14.html>

資料2-2-2 「アイリス家庭科教免の会」

<https://sites.google.com/gaines.hju.ac.jp/airisktk?pli=1>

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

教職課程カリキュラムの編成にあたって、学科科目と教職課程科目との系統性の確保を図るため、各学科でカリキュラム・マップを作成し、『カリキュラムブック』にて学生に周知している。また、シラバスには、各科目のディプロマ・ポリシーの位置づけ、到達目標、学修内容、評価方法など記載し、学生に明示している。

コアカリキュラムとの関連については、毎年シラバス作成の時期に、教職課程委員会を中心にチェックを行っている。教員育成指標については、教員育成指標の検討を行う「広島市教員等育成に関する協議会」に参加し、それらの知見を適宜、教職課程カリキュラムの編成・実施に採り入れている。

授業科目では、情報活用能力を育てるために、課程認定基準に定められた科目以外にも、全学対象科目として文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」に沿った科目を開講し、教職課程の学生にも履修を促している。さらに、2018年度以降、全ての科目にアクティブ・ラーニングの方法を採り入れるとともに、学生の情報活用能力の育成を目指し、電子黒板や Chromebook というハードに加え、ロイロノートなどのソフトを導入している。

教育実習の履修にあっては、一定以上の GPA と教職に関する指定科目の単位修得を履修要件とし、『カリキュラムブック』に明示し、各学期開始時のオリエンテーション、必要に応じて行われる教職関係のオリエンテーションにおいて指導している。

学生による自覚的な教職課程カリキュラムの学修を進めるにあたって、ポータルサイト上の「教職履修カルテ」を用いて面談を行うとともに、教職実践演習では教職履修カルテに基づいた演習を設け、教員と学生との個人面談を行うなど実際の授業場面においても活用している。

〔長所・特色〕

ディプロマ・ポリシーの1つである「寛容と協働」のもと、学校、保護者、地域との連携を意図し、子育て支援や地域との協働などに関わる科目を積極的に設け、建学の精神や学科のポリシーを具現化した教職課程教育を行っている。このほか、教育委員会等が主催する研修会やボランティア活動に学生を参加させている。これらへの積極的な参加を促すことで、学生の教育施策についての見識を深め、教師に求められる資質・能力の向上を図っている。

今日の学校教育に対応するため、全学科共通科目「AI リテラシー」などを開講し、ICT に関する基本的、発展的な知識と技術を修得し、学校教育へ応用できるよう指導している。さらに小規模大学ということを活かして、比較的早く全学的なアクティブ・ラーニングの推進に取り組んでおり、そのための FD 研修も重ねている。

シラバスに示している授業の到達目標にはルーブリックを設け、授業回ごとに該当する到達目標を示し、学生に対して成績評価の基準を明示している。

〔取り組み上の課題〕

今後はそれぞれの学科の専門性なども考慮しつつも、教職課程のカリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーを構想し、教職課程教育における教職課程科目およびその他の学科科目の位置づけや関係性を整理・検討していくことが必要である。

また、今日の学校教育に対応する指導を行うために、教員育成指標の共有を教員間で十分に行い、各教育委員会との連携を強化し、研修会やボランティア活動への参加学生を増やす体制を構築することが課題である。あわせて、情報系科目履修の推奨やアクティブ・ラーニングの推進についても、学生の実態に合わせて定期的な内容の見直しが必要である。

*根拠となる資料・データ等

資料1-1-2 カリキュラムブック 2022

資料1-1-4 学内ポータルサイト

資料1-1-5 シラバス <https://asm-ediea.com/hju/open/ja/syllabuses>

基準項目3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状説明〕

教職課程科目に教材開発、学習指導案作成の在り方、模擬授業、教育問題に関するロールプレイングなどの各種演習を積極的に採り入れ、実践的指導力を育成している。

また、体験活動の機会として、全学共通科目および学科科目に体験活動を伴う科目、教育委員会等が主催する研修会やボランティア活動、教職課程教員が顧問を務める学習・交流組織への参加機会等を設け、教育実践の最新の事情や実態について理解する機会ともなっている。これらの科目・活動では事前事後指導を行い、事後指導においては体験の振り返りを行っている。

関係機関との連携については、「広島市教員等育成に関する協議会」や、広島市や呉市においては教職課程を擁する大学で構成される「教育実習連絡協議会」を通じて、教育委員会や校長会との連携、意見交換を行う機会を得ている。

〔長所・特色〕

初等教職課程、中等教職課程がともに実践的指導力を高めるための学習交流組織を持ち、活動を行っている。さらに全ての学科において体験活動を含む科目を設け、活動の一部は学内外で成果報告を行い、実践力の積み重ねを図っている。

教育委員会との連携により、学校教育の最新事情を得る機会を設けている。また、実務家教員の知縁を活かした連携や情報収集をしており、学生が地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新事情を理解できるようにしている。

〔取り組み上の課題〕

各学科の特性に応じた実践的指導力育成の機会が十分に機能しているか、各教職課程委員会にて学生の学修状況をもとに検証を行い、さらなる充実に向けて改善する必要がある。

また、「広島市教員等育成に関する協議会」等への参加を通して得た情報を各教職課程

委員会で共有し、教育委員会等との連携強化を図っていく必要がある。

根拠となる資料・データ等

資料1-1-2 カリキュラムブック 2022

資料3-2-1 牛田学区社会福祉協議会「小学校であそぼう」

https://shakyo-hiroshima.jp/tiku_detail.php?id=148

Ⅲ 総合評価

今回の自己点検・評価にあたっては、一般社団法人全国私立大学教職課程協会の「教職課程自己点検評価基準」の評価項目を参考にした。いずれの評価項目も改善すべき点はあるが、概ね取り組んでいることが確認できた。

教職を担うべき学生の育成にあたり、時代的、社会的課題に対応した指導を行う上でのカリキュラム、実践、環境をおおよそ備えることができている。また、日頃より学生の適性や資質に応じた教職指導や、学生の意欲や適性に基づいた適切なキャリア支援を教職員が連携しながら行っていることは評価できる。これら取り組みをさらに充実させるために、教職課程履修者用カリキュラム・マップの作成等を通して、関係教員間で育成する学生像および学科カリキュラムと教職課程科目の位置づけを共有することが課題である。また、ポータルサイトにある教職履修カルテや学修データ、教職に関する就職情報等を教員や学生が十分に活用できるように、現状のデータ分析を行ったうえで、データの提供方法を検討することが必要である。

また、本学では実践的指導力を育成する機会が授業科目だけでなく、教職課程教員が関わる課外活動を通して多種あり、学生に多くの選択肢があることは評価できる。一方で、学外の活動への参加については参加率をあげていくことが課題である。また、教育実習協力校との連携、協力について、今後は教員間で広く共有し、地域の実態に合わせた学生の実践的指導力の向上に務めていくことが課題となった。

以上のような教職課程の改善および課題に取り組むために、引き続き、初等教職委員会、中等教職委員会、教職課程運営委員会を開催し、関係教員で教職課程の目的・目標および学生の学修成果を共有し、学部・学科、関係部署と連携を取っていく。また、教職課程独自のFD・SD研修にも取り組み、教職課程の質向上を目指す。

Ⅳ 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

2022年7月に教職課程運営委員会（各学科選出委員を除く）にて、一般社団法人全国私立大学教職課程協会の「教職課程自己点検評価基準」を基に教職課程の自己点検・評価を進めることを決定した。初等教職課程委員会、中等教職課程委員会において自己点検・評価を実施し、都度進捗状況の共有を図った。

その後、総合学生支援センター長、両課程主任、教職担当教務課員において各教職課程の自己点検・評価の結果を確認し、報告書（案）をとりまとめた。2023年3月に教職課程運営委員会にて報告書（案）の確認を行い、学長の承認を経て完成に至った。

V 現況基礎データ一覧

2022年5月1日現在

法人名	学校法人 広島女学院				
大学名	広島女学院大学				
学部・学科	人文学部 国際英語学科 日本文化学科 人間生活学部 生活デザイン学科 管理栄養学科 児童教育学科 生活デザイン・建築学科 幼児教育心理学科 国際教養学部 国際教養学科				
研究科・専攻	大学院言語文化研究科 日本言語文化専攻 英米言語文化専攻 大学院人間生活学研究科 生活文化学専攻 生活科学専攻				
1. 卒業者数、教員免許取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度（2021(令和3)年度）卒業者数				361名	
② ①のうち就職者数 (含：企業 公務員等)				334名	
③ ①のうち教員免許状取得者の実数 (複数免許取得者も1とする)				99名	
④ ②のうち教職に就いた者の数 (正規採用＋臨時的採用の合計)				41名	
④のうち正規採用者数				33名	
④のうち臨時的任用者数				8名	
2. 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	26名	19名	5名	1名	0名
相談員・支援員などの専門職員数				2名	